

届け 世界の果てまでも

令和3年 3月12日

No. 71

文責 校長 飯久保一男

エジソンから学ぶ

今号は「エジソン」にまつわる話、名言から考えたことを書かせてもらいます。

エジソンといえば誰もが知っている発明王です。電球の発明が有名ですが、蓄音機、映写機の発明、電話の実用化なども有名です。100年以上前に、手を使わずにパンが裏返せるトースターも発明しています。そして、逸話や名言もたくさん残っています。



逸話その1…【小学校を3か月で追い出された】

1 + 1 = 2 という学習をしたときに、「ねん土1つと、ねん土1つを合わせると、1つの大きなねん土ができるのに、なぜ2になるの？」など、何に対しても「なぜ、なぜ」と聞いて、先生を困らせたことが原因だといわれています。

逸話その2…【初めての発明】

駅で夜の電信係として働いていたエジソンは、1時間おきに働いていることを示す信号を送るだけという退屈な仕事に飽きてしまい、時計を使って電信機が自動で電信を送る機械を発明しました。電信を機械に任せて自分は寝ていたところ、誤差なく正確に1時間おきに電信が届くようになったことを不思議に思っ様子を見に来た上司に「お前が寝ていたら定時に連絡する意味がないだろう」と怒られ、クビになったといわれています。

逸話その3…【発明に没頭するあまり…】

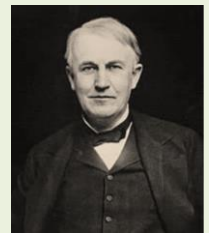
発明にあまりにも熱中しすぎたために、声をかけてきた奥さんに「あなたは誰でしたっけ？」と尋ね、奥さんをひどく怒らせたといわれています。

おもしろい逸話がいくつもあるエジソンですが、名言もたくさん残しています。

名言その1…最初は「子どもたちに考えてほしい言葉」です。

ほとんどすべての人間は、
もうこれ以上アイデアを考えるのは不可能だというところまで行きつき
そこでやる気をなくしてしまう。
勝負はそこからだというのに。

トーマス・エジソン



このエジソンの言葉は、いろいろなことに置き換えることができます。縄跳びに取り組んでいる子が、自分には縄跳びの難しい技は無理だ、これ以上はうまくならないと思い、あきらめてしまうようなことが当てはまるのでしょうか。もう少しでできるようになるのに…。自分で限界と思っても、まだその先があるとエジソンが教えてくれているように思います。簡単にあきらめず、努力して乗り越えてほしいものです。

はじめからできる人は誰もいません。初めて自転車に乗ったときにすぐには乗れなかったと思います。何度も痛い思いをしてできるようになったのでしょう。転んで痛かったからあきらめたら乗れるようにはなりません。はじめから泳げましたか。はじめから九九が言えましたか。はじめから漢字が書けましたか…etc.

今できるようになっているものは、練習や努力を積み重ねた結果できるようになったはずです。また、できるようになりたいという気持ちをもってやったからできるようになったと思います。子どもたちには、簡単にあきらめてほしくありません。挑戦しはじめたことは、できるようになるまで努力してほしいと思います。

名言その2…次は「教師への戒めにもなる言葉」です

**1%のひらめきがなければ
99%の努力は無駄である。**

トーマス・エジソン



この言葉は、「天才（発明）とは、1%のひらめきと、99%の努力（汗）である。」と、努力の大切さを伝える言葉として紹介されることがあります。しかし、どうやら、上記のエジソンの言葉は、間違っただけで伝わってしまったようです。エジソンはのちにこう述べています。

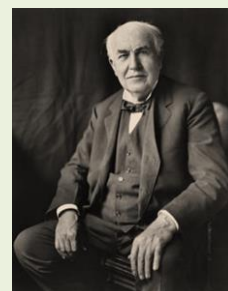
「私の言葉が誤解されてしまったようだ。99%の汗ばかりが強調されているが、汗を流せば何でも成功すると思うのは間違いだ。私は、1%のひらめきと言ったはずだ。1%のひらめきを無視してはならない。成功のためには汗も努力も欠かせない。だが目的のない努力だけでは、いつかは力尽きる。99%の汗が実るのは、1%のひらめきを大切にしたときなのだ。」

間違っているものをいくら練習しても無駄なことになります。私たち教師は、子どもたちに正しい方法や目的を伝え、または見つけさせ、それを練習して習得していくように指導・支援をしなければならないと戒めとなる言葉でもあります。

名言その3…最後は「保護者の皆さんに考えてほしい言葉」です。

**何があっても支えてくれた母がいたからいまの私がある。
母だけは、何があってもあるがままの私を理解してくれた。
どんなに苦しいときでも
母を喜ばせたくて私は努力を続けることができた。
すべて母のおかげだ。**

トーマス・エジソン



小学校を追い出されたエジソンに教育をし、励まし、実験の楽しさを教えたのは、エジソンの母だということです。そのおかげで、エジソンは発明王になったともいえます。何度も失敗をしてあきらめようかと思ったときに、母を喜ばせたいと思うことで、あきらめずに粘り強く取り組んだのだとエジソンは言います。

エジソンの親への感謝の言葉として残っている言葉ですが、親として、子どもにどう対応したらいいのかを示してくれている言葉であると思います。教師も子どもたちを理解しようと努めていますが、子どもにとって、いちばん身近で、いちばん自分のことを理解してくれているのは親です。親の支えと理解があつてこそ、子どもは安心していろんなことにがんばれるのだと示唆してくれていると思います。

子どもを理解すること…、簡単なようで難しいことです。特に小学生の親は、子どもの成長とともに接し方を変えていかなければならない難しさがあります。6年間で、幼児期から思春期へと、子どもから大人の入口へと大きく成長します。もうすぐ学年が上がるからと、それまで親が手を出してやっていたことを急に一人でやれと言われても子どもは困ってしまいます。逆に、いつまでも幼稚な接し方をしていたのでは、子どもの成長に影響を与えてしまいます。甘えさせてやるべきとき、スキンシップが大切なとき、少しは突き放すことが必要な時期があります。そして、もちろん、子どもの成長には個人差がありますので、一律にはいきません…。これからも、親と教師がともに考え、学んでいきたいことです。